

# 大学は「組合」として はじまった

(第1回)

京大職員組合  
研究紹介ミニ講義

文学研究科・川添 信介

2011年8月3日

# 話のおおよそ

- 自己紹介
- 「大学」とはどのように始まったのか
- どのように組織されていたのか
- 学びのあり方 （ここまで第1回）
- 「教養」という基盤
- 「専門職」教育という使命
- 現在の京都大学から見ると

# 自己紹介

- 西洋中世哲学史
- 13世紀から14世紀の「スコラ哲学」
- スコラ→「学校」つまり「大学」
- 大学の歴史が専門ではないけれども

# 「大学」はどのように始まったのか(1)

- 「12世紀ルネサンス」
- 西欧の12世紀末から13世紀に
- 最初の「自然発生的」大学：
  - ボローニャ大学では学生の組織として
  - パリ大学では教員（と学生）の組織として

# 「大学」はどのように始まったのか(2)

- universitas は「組合」「団体」の意味  
教育：個人的契約から団体的契約へ
- 外部（都市や王国）に対する自治  
税金や軍役の免除特権など
- 内部的な規律

# 「大学」はどのように始まったのか(3)

- 「移動した」大学：  
ストライキとして別の町に移ってしまう  
ボローニャ大学 → パドヴァ大学  
パリ大学 → オルレアン大学
- 帝国や教会が「創設した」大学：  
ナポリ大学、トゥールーズ大学

# どのように組織されていたのか(1)

- 教育組織としての「学部 facultas」:  
そもそもこれがuniversitasでもあった
- 四つの学部:  
教養課程(学芸学部)と上級学部(法・医・神学)
- 民主的な運営:  
学頭の選挙による選出と短い任期

## どのように組織されていたのか(2)

- 相互扶助のための「国民団・同郷会 natio」:  
そもそもが「国際的」な大学  
多くの「外国人」学生のための便宜
- ちょっとわき道: 大学生協のこと



# 学びのあり方(1)

- 「講義 *lectura, lectio*」:  
といっても、これは「読む *legere*」に由来。  
書物の注釈
- 権威を認める根本姿勢  
学ぶべき事柄が書物として確定し、その順序も  
決まっているカリキュラム

# 学びのあり方(2)

- 「討論 disputatio」:  
教授が組み立てる「正規討論」と  
祝祭日の「自由討論」
- あくまで「合理的に」議論する態度

# 第1回講義：とりあえずのまとめ

- Universitas: 学問に関わる「人びとが」自発的に作り上げた団結的組織として始まった
- だから、そもそも自治的で民主的な団体だった
- だからまた、自由な討論を促すような教育方法をもっていた
- しかし同時に、学ぶべき内容が固定的に組織されていた。特定の学問分野での「専門的知識の獲得」が団体の組織目的でもあった。